

水辺で安全に調査をするために

調査に当たっては危険防止のため必ず指導者（大人）が立ち会い、次の注意事項に十分留意しましょう。

（１）調査は数名のグループで。

１人だけの行動は大変危ないので必ずグループで調査しましょう。

（２）河川の流力は思った以上に速い。

河川の流力は思った以上に速いことがあります、また、日によって状況が異なるため、流れの速さを確認してから川に入って下さい。

具体的には、当日の天気予報を調べる（携帯電話により野外でも天気予報を調べることができます。）増水の可能性があるときは調査を中止する。現場では目視確認を行い、まず指導者（大人）が川に入って状況を確認する。特に初めての調査地点の場合には事前調査を十分に行う。

（３）調査は、川底が見えるところで。

水深としては 30 cm 位までのところとし、これよりも深いところには入らない。

（４）ぬれてもよいクツをはく。

川底に空きカンやガラスビンなどが落ちていて、川の中にはだしで入るのが危険な場所もあります。ぬれてもよいクツをはいて調査しましょう。なお、子供用の長ぐつは中に水が入ると歩きにくくなり、ぬげてしまうこともあるので、浅い川以外は不適です。

（５）川底の変化に気をつける。

川底が急に深くなったり、やわらかい泥で足を取られたりする事があります。十分に気を付けて歩いて下さい。指導者は安全な調査エリアを確認し参加者に指示して下さい。

（６）足元と手元に注意。

川底が、コケなどで大変すべりやすくなっている場所もあります。ころんだり、すべったりしてケガをしないように十分に注意しましょう。また、川の中に入るときには、壊れやすいものや先のとがったものは身につけないように。ころんだ時に体をきずつけるおそれがあります。

（７）きたない川での注意。

大変きたないと思われる場所で調査する場合には、ビニール手袋やゴム手袋などをはめて調査しましょう。

（８）万が一に備えた準備と心構え。

万が一ケガをしたときのため、ファーストエイドキットを携帯しましょう。また、指導者の方は病院の場所や連絡方法について事前に確認しておいて下さい。